令和３年度(令和２年度実施事業分)事務事業評価評価票

No.	03-006
担当	野村
内線等	226

PDCA	事務事業名	ふるさと新発見事業	部課等名	企画部 企画課 企画担当

P 総合計画との関係性等

政策体系	章： 第１章 協働によりともに高め合うまち 節： 第１節 協働のまちづくりの推進 基本施策： ２．コミュニティ活動支援 単位施策： 個別施策：
根拠法令等	−
対象・目的	市内に眠る地域資源・魅力を掘り起こし、それを磨き上げ広くＰＲしていくことで、市民の自分のまちに対する愛着と誇りの醸成を図るとともに、地域の活性化を図る。
目的を達成するための手段・活動内容	概ね５年サイクルで重点地区を設定し取組を実施する。平成３０年度からは成岩地区を重点地区とし、将来にわたって地元住民・団体が主体となって活動が継続するよう、地域とともに活動内容を考え事業を展開していく。

D 前年度の活動結果と見られた成果

活動結果

活動実績	H30年度	R1年度	R2年度	単位
①地域資源を活用した協働イベント日数（雨天中止含む）	1	1	0	日
②地域資源の活用を促進するためのツール制作	1	1	0	点
事業費	151	618	0	千円
人件費	1,874	33,105	2,469	千円
総事業費	2,025	3,723	2,469	千円
活動単位当たりのコスト	H30年度	R1年度	R2年度	単位
①半田市民一人当たりにかかるコスト	16.9	31.0	20.6	円

成果

成果指標		H30年度	R1年度	R2年度	単位
重点地区３年目の年として、成岩地区の魅力を住民へ発信するために、スタンプラリーやイベント等を企画・開催し、地元への愛着や誇りを醸成していく。	実績値				
	目標値				
	実績値				
	目標値				
	実績値				
	目標値				

C 課題の整理

観点別評価

必要性		有効性		効率性	
①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある		
③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—

事業の評価・課題

C

成岩地区の取組み３年目として、これまでに製作した「ならわまち歩きマップ」や「てらまちガイドブック」を活用し、スタンプラリーやまち歩きイベンを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を断念した。令和３年度以降も感染症の影響が続くことが見込まれるため、新しい生活様式に対応した事業案を検討し、地区内の寺院の住職を集め意見交換会を実施し情報共有を図った。また、継続的に事業を推進するために必要な核となる団体・人物については、引き続き模索していく必要がある。

A 課題解決のための目標

今後の事業の方向性

改善推進

長年成岩に住んでいる方はもちろん、地域に関心の低い方にも成岩地区に興味を持ってもらえるよう、マップ等を配布するだけでなく、ツイッターを活用してコロナ禍でも参加できるイベントを行ったり、市民自身がＰＲ動画を制作しユーチューブに投稿して情報発信を行う等、市民が直接成岩の魅力に触れることで、地域への愛着の醸成を図っていく。

令和３年度の目標

成果指標	目標値	単位
成岩系ユーチューバーが投稿した動画の総再生回数	21,000	回
まち歩きイベント後の成岩への愛着度	70.0	%